

令和8年2月12日

下田市長 松木 正一郎 様

伊豆縦貫自動車道(仮称)下田北 IC の
周辺まちづくり検討協議会
委員長 天野 光一

伊豆縦貫自動車道(仮称)下田北インターチェンジの周辺まちづくりについて

令和6年11月18日に委員として委嘱を受けました伊豆縦貫自動車道(仮称)下田北 IC の周辺まちづくり検討協議会において、同協議会要綱第2条第1項第1号に基づく、箕作地域のまちづくり基本計画等の策定に対する助言及び提言として、伊豆縦貫自動車道(仮称)下田北インターチェンジ周辺の土地利用における基本的な考え方をまとめましたので、次のとおり報告します。

本内容を踏まえ、今後も地域住民の意見を反映しつつ、観光、地域活性化、交通、防災を融合させた計画が策定されることを期待します。

記

1. はじめに

「伊豆縦貫自動車道(仮称)下田北インターチェンジ周辺の土地利用における基本的な考え方」は、広域的視点を持ったなかで、自然環境、社会環境、歴史的環境を整理するとともに、令和6年度に行われた地元ワークショップ等を踏まえ作成しました。

2. 土地利用の目指すべき姿

伊豆縦貫自動車道(仮称)下田北インターチェンジの開通を見据え、観光振興・地域活性化、道路利用者の休憩施設、防災機能を備えた土地利用とし、一帯を「道の駅」として整備することにより、地域活性化、伊豆半島の防災機能を強化することを目指すべき姿とします。

3. 土地利用の方向性

詳細な区域や機能、規模については、事業関係者協議や事業予測などを行ったうえで定めていくものとします。

- ① 観光振興・地域活性化
〈交流拠点、物産販売、交流スペースの整備等〉
- ② 道路利用者の休憩施設
〈観光情報発信、休憩施設の提供等〉
- ③ 防災機能
〈広域防災拠点、洪水リスク軽減のための盛土造成等〉
- ④ 環境や景観への配慮
〈景観における周辺への配慮、緑地帯や親水テラスの整備等〉

4. 実現に向けて

市財政の負担軽減や効率的な建設、運営を勘案し、道の駅の整備は、道路管理者との一体型整備を目指し、施設整備は、公共と民間が連携した効率的な事業運営を目指した官民連携手法（PPP/PFI）を検討することが必要です。

【付属資料】

- ・伊豆縦貫自動車道（仮称）下田北 IC 周辺の土地利用における基本的な考え方